

2026年度(前期)

理学療法学科 1 学年
教育計画

関東リハビリテーション専門学校

2026年度 教育計画（理学療法学科）

学 年 : 1 科 目 名 : バイオメカニクス入門

担当講師 : 降旗 悟志

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 : 運動学 第2版 (羊土社)

(出版社) : 運動学ノート 第2版 (医歯薬出版)

参考書 :

解剖学 第5版 (医学書院)

(出版社)

教育目標 【到達目標】 : GIO: 人体の運動に必要な生体力学について理解する。

SBO: ①生体力学 (てこ、モーメント、ベクトル) について説明できる。②骨格筋の構造と機能を説明できる。

③運動とエネルギー代謝について説明できる。

【講義概要】

この講義では、身体運動の基礎となる生体力学（バイオメカニクス）や骨格筋の構造と機能について学んでいく。

回数	項 目	内 容
1	オリエンテーション	理学療法に必要な知識
2	力学の基礎	バイオメカニクスとは
3	身体（運動）の面と軸	身体の面と軸、各面上の運動方向
4	力が働く方向	ベクトル・モーメントとは
5	身体とてこ①	てこの原理について
6	身体とてこ②	身体の関節とてこについて
7	身体の関節	身体の関節の構造と機能について
8	骨格筋①	骨格筋の構造と機能について
9	骨格筋②	筋収縮について
10	骨格筋③	運動単位と筋張力について
11	関節の安定性	関節の安定性と運動性について
12	運動の中樞神経機構	随意運動と伸張反射について
13	運動と代謝	運動エネルギーと代謝について
14	運動と呼吸・循環	運動時の呼吸数と心拍数について
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の8割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

2026年度 教育計画（理学療法学科）

学 年 : 1 科 目 名 : マナー・コミュニケーション論

担当講師 : 中山 麻子

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 : 「改訂版」楽しく学んで実践できる
(出版社) : 対人コミュニケーションの心理学 (北樹出版) 参考書 :
(出版社) :

教育目標 【到達目標】 : ①良好な人間関係を作るための知識を理解する。

②医療従事者におけるコミュニケーション能力の重要性を理解する。

③相手に不快感を与えないコミュニケーションを行うことができる。

【講義概要】

理学療法士が患者や医療関係者との良好な人間関係を構築するために必要な知識やコミュニケーションスキルなどを講義や演習を通して学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	心理学・コミュニケーション概論	心理学およびカウンセリングについて概要を説明する。 自分のコミュニケーションスキルを知る
2	自己紹介	自己紹介を通して自分自身の理解を深めること、及びコミュニケーションを学ぶ。
3	他者との関わり	ゲームを通して、人との関わり方を学ぶ。
4	傾聴	傾聴の基礎を身につける。 質問や応答の仕方を学ぶ。
5	信頼関係の構築	ラポールの形成をはかる。 受容と共感のスキルを身につける。
6	アサーション	対人コミュニケーションの基本を実践する
7	非言語コミュニケーション	印象形成、表情、パーソナルスペースについて理解する
8	中間テスト	中間テスト これまでの復習
9	日常会話のコミュニケーション	自分と他者の認知の違いを知る
10	対人コミュニケーション	ゲーム課題を通してコミュニケーションヲ学ぶ
11	自己理解1	よりよいコミュニケーションのために、自己理解を深める
12	自己理解2	ユング心理学、効果的な質問方法等を理解する。
13	心の病	さまざまな心の問題について理解する。
14	心理療法	さまざまな心理療法について理解する。
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の8割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義方式を基本とするが、レポート作成、ディスカッション、およびロールプレイの時間を適宜取り入れる。

2026年度 教育計画（理学療法学科）

学 年 : 1 科 目 名 : 医学英語

担当講師 : 大矢 暢久

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 : イラストでまなぶ・わかる プレリハ リハビ 参考書 :
(出版社) : リ・医療福祉系 第3版 (アイベック) (出版社) :

教育目標 【到達目標】 : (GIO) 医療スタッフとして働く人が常識的に身につけていたい基礎的な医学英単語を学ぶことが出来るようになる。(SBOs) ①身体各部、神経系、疾患、運動、筋肉、障害、症状についての英単語を理解し、記載できる。
②カルテに記載された英単語を理解することができる。

【講義概要】

基本的な医学英単語を身につけ、医療で必要なカルテに記載されている内容を理解できるように講義およびグループ学習を通して理解を深められるように進めていく。

回数	項 目	内 容
1	身体各部1	身体、筋骨格系
2	身体各部2	内臓①
3	身体各部3	内臓②
4	神経系	中枢神経系、末梢神経系
5	疾患	呼吸器系、循環器系、中枢神経疾患、運動器疾患
6	一般1	リハビリテーション、障害、リハビリテーション職種
7	一般2	動作、評価、治療
8	中間	まとめ
9	運動1	関節運動
10	運動2	肢位、動作、など
11	運動3	筋肉、筋収縮、など
12	筋肉1	上肢
13	筋肉2	下肢
14	障害、症状	筋肉・神経の障害・症状、など
15	まとめ	

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の8割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義方式を基本とする。総合病院、整形外科クリニックで勤務経験のある理学療法士が実務経験に基づいて、臨床場面に即した理学療法士として必須の英単語を中心に習得できるような講義とする。

2026年度 教育計画（理学療法学科）

学 年 : 1 科 目 名 : 解剖学 I

担当講師 : 桑原 俊男

単 位 : 2 単位 教育時間 : 60 時間

教科書 : 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 参考書 :
(出版社) : 解剖学(医学書院) (出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 人体の構造（形態）は医学を学ぶ上で基本となる学問であり臨床学問の基礎となる部分です
からよく教科書を読んで学んでほしい。

【講義概要】

解剖学は人体の構造や形態を学ぶ学問である。この講義では理学療法士が理学療法を行う際に必要な解剖学的な知識について学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	解剖学総論（解剖学とは）	人体の内部構造を理解する上での解剖学について
2	解剖学総論（解剖学とは）	肉眼解剖とは。顕微鏡解剖とは。
3	解剖学用語	解剖学的姿勢。体の区分を現す解剖学的表現。
4	解剖学用語	体の向きを現す用語。運動に関する用語について。
5	細胞	細胞から個体（人体）へ。個体のヒエラルキー（階属性）について。
6	細胞	細胞の形態的特徴。細胞内小器官の機能（働き）について。
7	組織及び発生	上皮・支持・筋・神経組織の構造上の特徴。
8	組織及び発生	人体発生の基礎。受精卵から胎児、個体への変化について。
9	循環器系（その1）	循環器系総論。
10	循環器系（その1）	循環器を構成する臓器。血管の分裂。動脈・毛細血管の構造。
11	循環器系（その2）	肺循環・大循環系。心臓の構造。
12	循環器系（その2）	血管の組成と機能。
13	循環器系（その3）	脳循環・門脈・胎児循環について。
14	循環器系（その3）	リンパ液の組成とリンパ循環について。
15	呼吸器系	気管・気管支・肺の構造。
16	呼吸器系	鼻・咽頭・喉頭の構造。
17	消化器系（その1）	消化とは。吸収とは。
18	消化器系（その1）	消化管を構成する臓器について。
19	消化器系（その2）	食道・胃・小腸・大腸の構造と吸収のメカニズム。
20	消化器系（その2）	食道・胃・小腸・大腸の構造と吸収のメカニズム。

2 1	消化器系（その3）	肝臓の肉眼及び微細構造。胆汁の流れについて。
2 2	消化器系（その3）	膵臓の構造。内分泌腺・外分泌腺と膵液の流れ方。
2 3	泌尿器系	腎臓の肉眼構造と微細構造。
2 4	泌尿器系	腎小体とは。ネフロンとは。尿路系。
2 5	内分泌（その1）	ホルモンとは。ホルモンの科学的性状。
2 6	内分泌（その1）	ホルモン分泌のメカニズム。ホルモン産生・分泌部位。
2 7	内分泌（その2）	各ホルモンの生体に及ぼす反応。
2 8	内分泌（その2）	血糖・体液・Ca・体温調節に関するホルモン。
2 9	生殖器系	男性生殖器系の構成と構造。女性生殖器系の構成と構造。
3 0	まとめ	総合確認
【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA（優）、70点以上80点未満をB（良）、60点以上70点未満をC（可）とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の8割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
【授業の方法・形式と教員紹介】 講義方式を基本とする。模型などを使い理解を深める時間を適宜取り入れる。		

2026年度 教育計画（理学療法学科）

学 年 : 1 科 目 名 : 生理学 I

担当講師 : 桑原 俊男

単 位 : 2 単位 教育時間 : 60 時間

教科書 (出版社) : 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学(医学書院) 参考書 (出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 医療人として、世の中でもっとも弱者である患者の治療を行なう理学療法士として、まずは健康人の身体の生理機能を理解する。そして、病態による生理機能の変化を知る。

人体（個体）を構成する器官（臓器）の機能（役割）について理解する。

【講義概要】

医療に携わる人にとって基礎医学を包含したヒトの生体機能を学ぶ生理学は欠かせない学問である。

本講義では細胞機能から体内の情報伝達機構、ホルモンの働きなど、理学療法士に必要な内容を学習する。

回数	項 目	内 容
1	生理学総論（生理学とは）	個体を構成する器官の機能について
2	生理学の基礎	個体の生命現象・内部環境の恒常性（ホメオスタシス）について
3	細胞の構造と機能	細胞膜の構造と機能について
4	細胞の構造と機能	細胞内小器官の種類とその営みについて
5	細胞の構造と機能	核と遺伝子構造ときのうについて
6	物質の移動	物質移動の現象
7	体液の組成と機能	体液の区分
8	体液の組成と機能	血漿浸透圧と血圧調節メカニズムについて
9	循環器系 その1	血液の組成と機能 1
10	循環器系 その2	血液の組成と機能 2
11	循環器系 その3	体内の血液循環（体・肺循環系）
12	循環器系 その4	心臓の自律性と刺激伝導系
13	循環器系 その5	心電図と心周期
14	循環器系 その6	血圧調節メカニズム
15	循環器系 その7	特殊な血液循環（脳・心臓・消化器系）
16	呼吸器系 その1	ガス交換メカニズム
17	呼吸器系 その2	呼吸調節のメカニズム
18	呼吸器系 その3	酸塩基平衡
19	消化器系 その1	栄養素とは、消化とは、吸収とは
20	消化器系 その2	口腔内消化と唾液の機能について

21	消化器系 その3	胃消化について、小腸における消化機能について
22	消化器系 その4	肝臓・膵臓の機能と消化液について
23	消化器系 その5	大腸における消化機能について
24	泌尿器系 その1	腎臓の肉眼構造と血流
25	泌尿器系 その2	尿生成のメカニズム1
26	泌尿器系 その3	尿生成のメカニズム2
27	泌尿器系 その4	レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系1
28	泌尿器系 その5	レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系2
29	まとめ	1回から28回までの重要事項確認
30	まとめ	総合確認
【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の8割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
【授業の方法・形式と教員紹介】 講義方式を基本とする。模型などを使い理解を深める時間を適宜取り入れる。		

2026年度 教育計画（理学療法学科）

学 年 : 1 科 目 名 : 基礎運動学

担当講師 : 降旗 悟志

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 : 運動学 第2版 (羊土社)

(出版社) : 運動学ノート 第2版 (医歯薬出版)

参考書 :

解剖学 第5版 (医学書院)

(出版社)

教育目標 【到達目標】 : GI0: 基本的な身体の運動を理解することができる。

SB0 : ①骨と構造を説明できる。②筋の構造と働きを説明できる。③関節の構造と機能を説明できる

【講義概要】

運動学では、解剖学、生理学を中心に、身体運動の基本的な理解のため頭部、体幹、四肢の関節の

基本的な構造と運動を学んでいきます。

回数	項 目	内 容
1	オリエンテーション	運動学とは
2	肩甲骨の運動学	肩甲骨の構造と運動1
3	肩の運動学	肩関節の構造と運動1
4	肩の運動学	肩関節の構造と運動2
5	肘の運動学	肘関節の構造と運動
6	手の運動学	手関節の構造と運動
7	上肢の運動学	上肢の運動学まとめ
8	股関節の運動学	股関節の構造と運動 1
9	股関節の運動学	股関節の構造と運動 2
10	股関節の運動学	股関節の構造と運動 3
11	膝の運動学	膝関節の構造と運動 1
12	足の運動学	足関節の構造と運動 1
13	足の運動学	足関節の構造と運動 2
14	手指、足趾の運動学	手指、足趾の構造と運動
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上を A (優)、70点以上80点未満を B (良)、60点以上70点未満を C (可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の8割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 講義・実技方式を行う。

担当教員は理学療法士として、病院・介護施設・在宅にて骨・筋・関節疾患のケースを担当している。

臨床で必要な関節の構造と骨筋の関係について講義を行う。

2026年度 教育計画（理学療法学科）

学 年 : 1 科 目 名 : リハビリテーション概論

担当講師 : 中川 智隆

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 : リハビリテーションビジュアルブック 第2版
(出版社)参考書 :
(出版社)

教育目標 【到達目標】 : 自立支援・就労支援・地域包括ケアシステムを含む、リハビリテーション概論について学ぶ。

【講義概要】 リハビリテーションとは、多くの専門職が連携して問題を解決していく総合的アプローチであるという点を理解するため、障害に対する知識や福祉機器等へ理解、グループワークを通して医療・保健・福祉などの多職種連携および地域包括ケアシステムの概念、自立支援、就労支援について学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	リハビリテーションの理解	オリエンテーション・リハビリテーションとは
2	リハビリテーションの理解	リハビリテーション構成メンバー
3	リハビリテーションの理解	リハビリテーションの目指すもの
4	リハビリテーションの理解	ICFに基づく考えかた
5	生活環境論について	地域包括ケアシステム
6	生活環境論について	地域包括ケアシステム
7	生活環境論について	在宅復帰・環境設定（家屋調整）
8	生活環境論について	在宅復帰・環境設定（家屋調整）
9	生活環境論について	在宅復帰・環境設定（家屋調整）
10	生活環境論について	転倒予防
11	生活環境論について	住宅改修
12	疾患に対するリハビリテーション	運動器疾患（骨折・変形性関節症）
13	疾患に対するリハビリテーション	運動器疾患（骨折・変形性関節症）
14	疾患に対するリハビリテーション	脳卒中・総論、脳出血・脳梗塞・くも膜下出血・脳卒中へのアプローチ
15	まとめ	まとめ

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA（優）、70点以上80点未満をB（良）、60点以上70点未満をC（可）とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の8割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 講義方式を基本とするが、グループディスカッションなどを通して学習を進める。
担当教員は訪問リハビリテーションや介護予防事業に携わった経験があり、実務経験を基に理学療法士として必要な知識が得られるよう、授業を進めていく。

2026年度 教育計画（理学療法学科）

学 年 : 1 科 目 名 : 理学療法概論

担当講師 : 石川 幸喜

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 : 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト
(出版社) : 理学療法概論 (中山書店)参考書 :
(出版社) :

教育目標 【到達目標】 : GIO: 理学療法の概念や歴史, 定義, 対象となる疾患の理学療法を理解する。

SB0: 理学療法の歴史, 定義, 法律, 職業倫理, 保険制度について説明できる。障害の概念, ICFと理学療法の関連性につ

いて説明できる。理学療法の構成と対象となる疾患別の理学療法の大枠が説明できる。

【講義概要】 理学療法とは何かを知るためにその概念, 歴史を知り, 疾患別の理学療法や急性期, 回復期, 維持期の理学療法について学修する。また法律, 職業倫理, 保険制度など理学療法の背景についても学習し理解を深める。

回数	項 目	内 容
1	オリエンテーション 理学療法の概	理学療法の概要とリハビリテーションにおける理学療法の役割
2	理学療法の背景 (1)	障害の概念・分類, 保険制度
3	理学療法の背景 (2)	歴史・法律, 職業倫理, 日本理学療法士協会
4	理学療法の構成	運動療法と物理療法, 理学療法の流れ 他
5	理学療法に必要な知識と実習	養成施設指定規則, 学習科目, 学習への取り組み
6	理学療法の主対象 (1)	中枢神経系
7	理学療法の主対象 (2)	運動器系
8	理学療法の主対象 (3)	内部障害系
9	理学療法の主対象 (4)	がん, 介護予防
10	病期・職域別の理学療法 (1)	急性期
11	病期・職域別の理学療法 (2)	回復期
12	病期・職域別の理学療法 (3)	生活期 (維持期)
13	病期・職域別の理学療法 (4)	在宅における役割
14	病期・職域別の理学療法 (5)	行政における役割 研究における役割
15	講義のまとめ	講義のまとめ

【成績評価方法】 定期試験の成績により, 80点以上をA (優), 70点以上80点未満をB (良), 60点以上70点未満をC (可) とし, 60点未満は不合格とする。なお, 総授業時間の8割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 講義方式を基本とするが, 講義内容に応じてグループワークを実施し自ら学ぶ取り組みも進めていく。中間試験を実施し知識の確認を行う。担当教員は, 病院や施設, 訪問リハビリテーションにおける急性期から慢性期までの理学療法経験を授業に生かしていきたい。

2026年度 教育計画（理学療法学科）

学 年 : 1 科 目 名 : 基礎理学療法学

担当講師 : 大矢 暢久

単 位 : 2 単位 教育時間 : 60 時間

教科書 : 理学療法評価学（金原出版）、機能解剖学的触診技術 上肢/体幹・下肢（メジカルビュー社） 参考書 : 標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版（医学書院）（出版社）

教育目標 【到達目標】 : (GI0) ①バイタルサインを測定する意義を理解する。②運動・刺激による身体の変化について理解する

③基本的な骨と関節、筋肉の名称を知り触診ができるようになる。(SBOs) ①バイタルサインを測る意味・目的・背景を説明できる。

②バイタルサインを正確に測ることができる。③基本的な骨とその部位、関節、筋肉の名称や機能を知り、触診できる。

【講義概要】 バイタルサイン（意識レベル・脈拍・血圧・呼吸・体温）を測る意味・目的・生理学的背景を理解し、それらを正確に測る事ができることを目標とする。トレーニングやリハビリテーションが身体へ与える影響を学んでいく。

運動方向や運動軸、基本的体位の理解、骨ランドマークや筋の触診が行えるようになるために講義と実技練習を行う。

回数	項 目	内 容
1	オリエンテーション	この講義の説明 運動生理学を学ぶ意義 受講生心構え
2	バイタルサイン (1)	バイタルサインを測る意義
3	バイタルサイン (2)	循環の生理学① 循環器・脈管の構造・機能
4	バイタルサイン (3)	循環の生理学② 血圧と脈拍の測定
5	バイタルサイン (4)	呼吸の生理学① 呼吸器の構造・機能
6	バイタルサイン (5)	呼吸の生理学② 呼吸機能測定
7	バイタルサイン (6)	体温測定、意識レベル、
8	バイタルサイン (7)	心電図の基礎
9	バイタルサイン (8)	心電図の応用
10	運動とエネルギー代謝	栄養素とエネルギー代謝
11	運動生理の基礎 (1)	筋の構造と機能 運動と筋の関係について
12	運動生理の基礎 (2)	体力測定 (ATの推測・Borg Scale)、運動処方
13	運動生理の基礎 (3)	筋力トレーニング理論
14	まとめと確認	これまでの範囲の知識の確認
15	講義・触診	上肢の骨 : 肩甲骨・鎖骨・上腕骨
16	講義・触診	上肢筋 三角筋～前鋸筋
17	講義・触診	上肢の骨 : 尺骨・橈骨・手指骨
18	講義・触診	上肢筋 上腕二頭筋～回外筋
19	講義・触診	下肢の骨 : 大腿骨・脛骨・腓骨・足部
20	講義・触診	下肢筋 腸腰筋～大内転筋

2 1	講義・触診	下肢筋 大腿直筋～膝窩筋
2 2	講義・触診	下肢筋 前脛骨筋～短指屈筋
2 3	講義・触診	上肢筋 前腕・手筋 長掌筋～虫様筋
2 4	講義・触診	体幹の骨 : 骨盤・脊柱
2 5	講義・触診	体幹筋 腹直筋・内外腹斜筋・広背筋・背筋群
2 6	講義・触診	関節の名称と靱帯
2 7	講義・触診	上下肢・骨盤・足部の骨触診
2 8	講義・触診	上肢の筋の触診
2 9	講義・触診	下肢の筋の触診
3 0	まとめ	総合確認
【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の8割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
【授業の方法・形式と教員紹介】 講義形式は対面講義に加え、演習・実技形式で実施する。演習では、運動生理学的背景に基づきバイタルサイン測り方の習得と測る意義の理解、記録・報告の方法の経験を目指す。担当教員は、理学療法士として総合病院、整形外科クリニックに従事し、その経験を活かし、安全で個別性に配慮した計測やトレーニング方法の実践、骨筋の知識と触診の講義を行う。		

2026年度 教育計画（理学療法学科）

学 年 : 1 科 目 名 : 理学療法治療学1[基礎運動療法]

担当講師 : 藤瀬 幸一

単 位 : 2 単位 教育時間 : 60 時間

教科書 : 運動療法学 総論 (医学書院)

参考書 : (出版社)

教育目標 【到達目標】 : GIO;運動療法の意義を理解し、基礎的な運動療法実施することができる。

SBO;①運動療法の基礎理論を理解する。②基礎的な運動療法の効果や実施方法を説明できる。

③基礎的な運動療法の実施方法や注意点を学ぶ。

【講義概要】

運動療法を行う上で必要な基本的な解剖学・運動学・生理学の知識や運動療法を効果や方法について学ぶ。

また、演習を通して運動療法の実施方法や注意点を学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	運動療法の概念	オリエンテーション・運動療法とは
2	運動療法の概念	関節および関節運動の名前
3	基本的運動療法	関節可動域訓練①
4	基本的運動療法	関節可動域訓練②
5	基本的運動療法	関節可動域訓練③
6	基本的運動療法	関節可動域訓練④
7	基本的運動療法	関節可動域訓練⑤
8	基本的運動療法	関節可動域訓練⑥
9	基本的運動療法	ストレッチ①
10	基本的運動療法	ストレッチ②
11	基本的運動療法	ストレッチ③
12	基本的運動療法	ストレッチ④
13	基本的運動療法	関節モビライゼーション①
14	基本的運動療法	関節モビライゼーション②
15	基本的運動療法	関節モビライゼーション③
16	基本的運動療法	関節モビライゼーション④
17	基本的運動療法	筋力増強運動①
18	基本的運動療法	筋力増強運動②
19	基本的運動療法	筋力増強運動③
20	基本的運動療法	筋力増強運動④

2 1	基本的運動療法	持久力増強運動
2 2	基本的運動療法	協調性運動
2 3	基本的運動療法	バランス運動
2 4	基本的運動療法	PNF①
2 5	基本的運動療法	PNF②
2 6	基本的運動療法	PNF③
2 7	基本的運動療法	PNF④
2 8	基本的運動療法	PNF⑤
2 9	まとめ	総合確認
3 0	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の8割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

講義方式を主とし実技演習での学習も行う。担当教員は理学療法士として病院での勤務経験があり、患者に対して運動療法を行っていた。その経験に基づいて授業を展開する。